

令和4年度第2回特別展

加藤倉吉

飽くなき

版画表現の追求



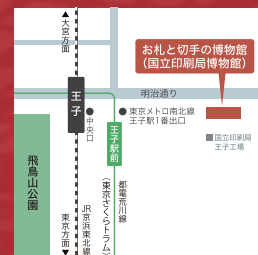
2022.10.12 (水) - 12.4 (日)

独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館

【住所】〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
【開館時間】9:30~17:00
【電話】03-5390-5194
【URL】<https://www.npb.go.jp/ja/museum/>
【休館日】月曜日

【アクセス】
JR京浜東北線「王子駅」(中央口) 下車徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口) 下車徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」 下車徒歩3分

入場無料
Admission Free



加藤倉吉

飽くなき版画表現の追求

加藤倉吉は、大正から昭和にかけて、お札や切手の原版彫刻に腕を振るった印刷局の工芸官（専門職員）です。

戦時中の印刷局では、常時必要な日本のお札類だけでなく、戦地で使用する多種多様なお札類の製造を担っており、多忙を極めていました。この時、倉吉は確かな技術と驚異的なスピードで膨大な数の原版を彫り上げ、時代の要請に応えました。また、彫刻に当たっては、さまざまな製版技法や表現方法を研究、模索し、在職中から退職後まで、多くの肖像画や風景画等の作品を残しました。

本展は、令和2年度第2回特別展でも取り上げた加藤倉吉の人となりと技を改めてご紹介するものです。今回は、新たに倉吉の先輩、後輩の工芸官による作品と比較しながら、印刷局伝統の彫刻技法を解説するほか、前回は展示しきれなかった風景画も多数展示します。これらの作品からは、自らの技術におごることなく、生涯をかけて新たな表現方法を追求した倉吉独特の趣を感じ取ることができます。

伝統の技を駆使したお札や切手、肖像画とともに、倉吉がより自由に彫り上げた自然の息吹、描かれた人々の生き生きとした表情との対比もぜひお楽しみください。



倉吉が初めて彫刻したお札の肖像・和氣清麻呂
日本銀行兌換券 丙 10円 昭和5(1930)年



倉吉が手掛けた「肖像」切手

(左から)「乃木希典」 第1次昭和切手 2銭 昭和12(1937)年
「少年航空兵」 第2次昭和切手 15銭 昭和17(1942)年
「野口英世」 文化人切手 8円 昭和24(1949)年



在職中に制作した肖像画

(左から)「マクドナルド」 昭和7(1932)年
「広田弘毅像」 昭和17(1942)年
「子爵斎藤実像」 昭和9(1934)年



退職後に彫刻した風景画

(左から)「山寺」 昭和50(1975)年
「三峰山」 昭和52(1977)年

独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館

【新型コロナウイルス感染拡大防止のために】

入館に際しては以下のご協力をお願いします。
・入館時アンケートの記入 ・体温の計測 ・マスクの着用
・手指の消毒 ・対人距離の確保 ・会話を控えること
・展示品、展示ケース等に触れないこと

また、当面の間、団体の予約受付を休止します。